

町田市第二次野津田公園整備基本計画



2014年5月

町 田 市



目 次

第Ⅰ章 計画の前提	1
1. 計画の背景と目的.....	1
2. 野津田公園の概要.....	2
3. 野津田公園整備計画の変遷.....	4
4. 公園をとりまく社会状況の変化.....	8
5. 上位関連計画.....	1 1
6. 野津田公園の現況.....	1 4
7. 懇談会等による検討.....	2 6
8. 計画への課題.....	3 2
第Ⅱ章 基本計画	3 3
1. 基本方針の設定.....	3 3
2. ゾーニング・動線計画.....	3 6
3. 公園利用者数の設定.....	4 2
4. 導入施設の検討と設定.....	4 4
5. 基本計画図	5 0
6. 個別計画	5 1
7. 概算工事費の算出.....	5 9
第Ⅲ章 管理運営計画	6 0
1. 現行の管理運営の把握.....	6 0
2. 計画の実現に向けて.....	6 1

第 I 章 計画の前提

1. 計画の背景と目的

野津田公園は、約 40ha の面積を有し、市内では唯一の陸上競技場がある最も大規模な総合公園である。

野津田公園は、1981 年に基本構想、1987 年に基本計画を策定し、「多くの市民が渴望している都市規模にふさわしい、スポーツ施設を中心とした総合公園とする」ことを方針として掲げて、段階的に整備を進め、順次開園してきた。

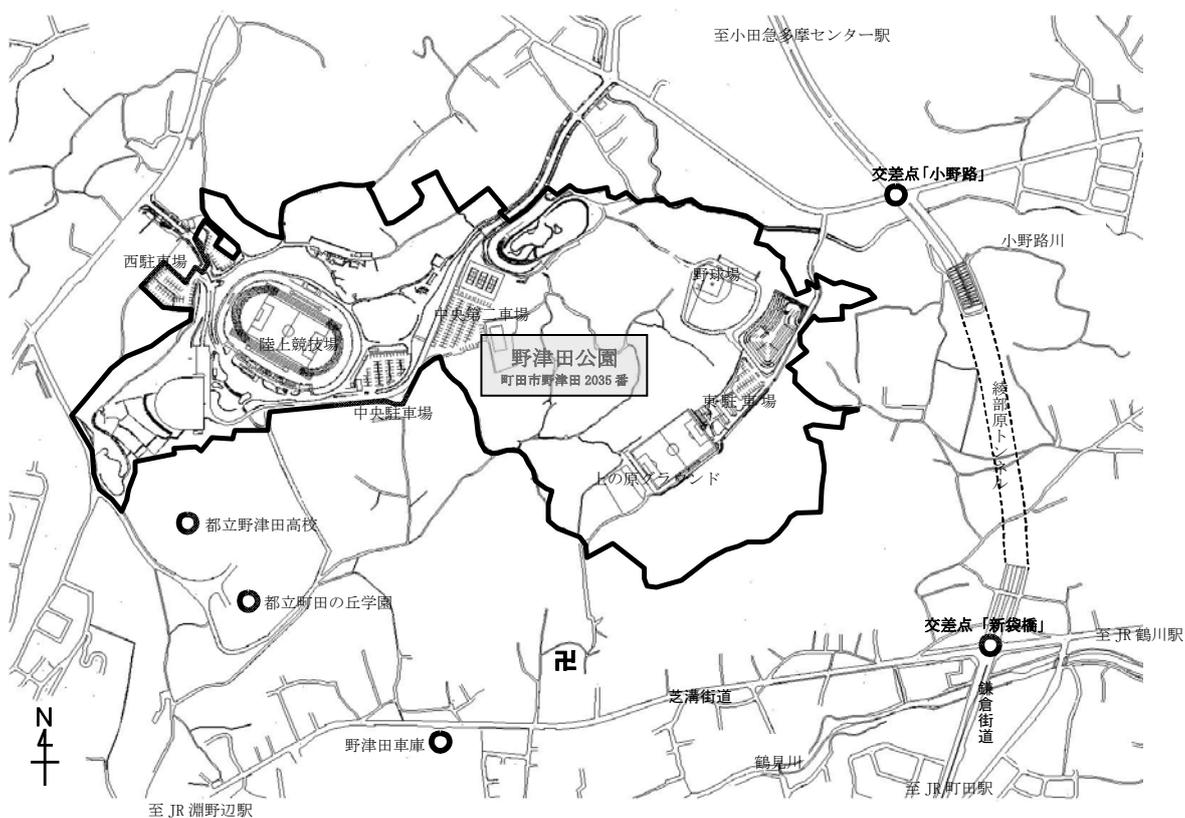
基本計画の策定から約 30 年が経過し、公園利用・活動の多様化、健康意識の高まりから、公園に対する需要や野津田公園を取り巻く環境が変化している。

「する」スポーツや「観る」スポーツをさらに充実させる等、多世代が魅力を感じる公園施設が求められている。

第二次野津田公園整備基本計画は、このような背景を踏まえ、野津田公園の将来を見据えたスポーツ施設を中心とした総合公園として、新たなニーズにも対応できる公園整備の方向性を明確にすることを目的として策定する。

計画の策定にあたっては、市民や有識者による計画懇談会を開催するとともに広く市民の意見・要望を伺い、その方向性、計画内容を検討したものである。

図 1-1. 野津田公園位置図



2. 野津田公園の概要

野津田公園は、市域北部の野津田町に位置し、豊かな自然と丘陵地の地勢が残る総合公園である。

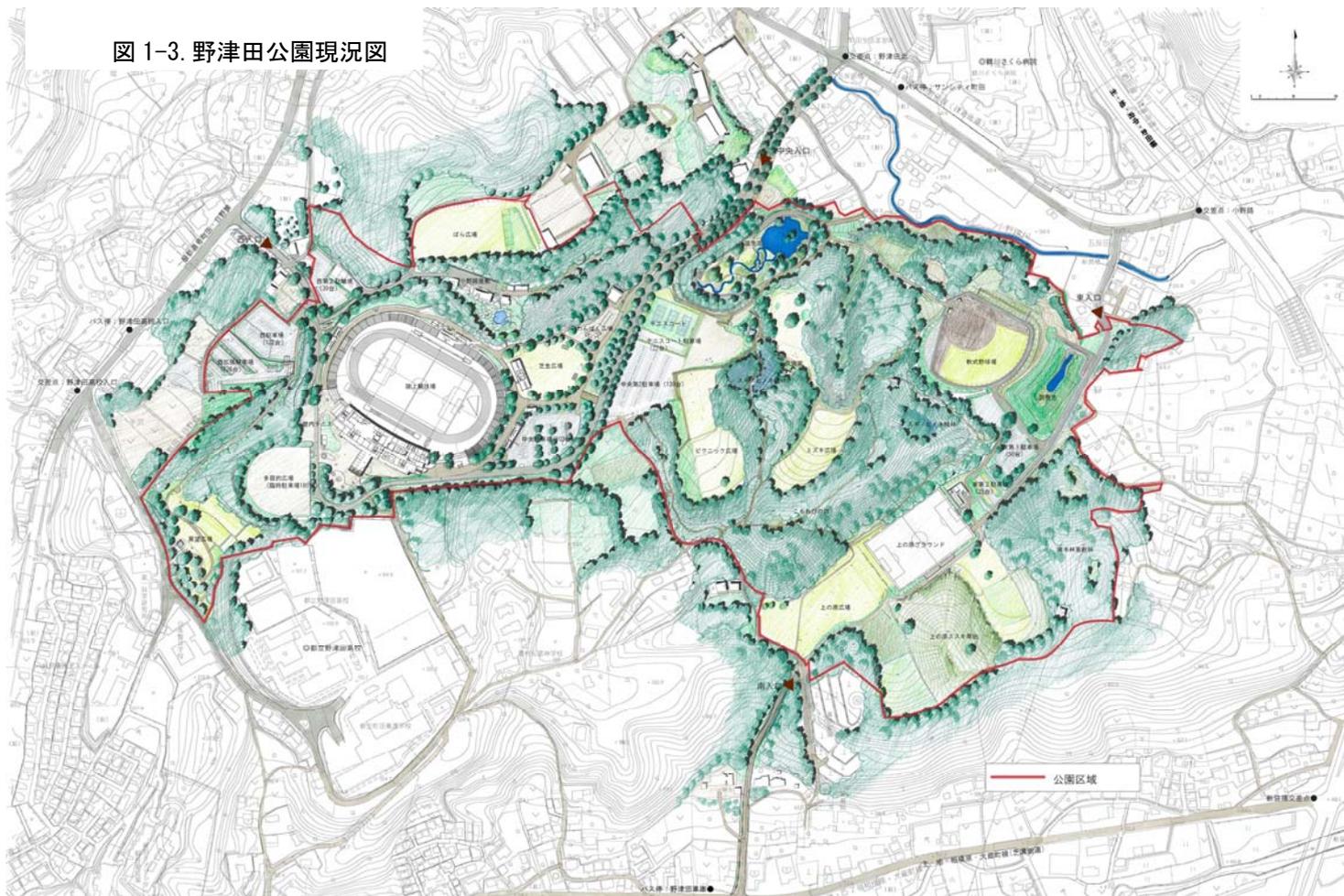
公園内には第三種公認陸上競技場であり、町田ゼルビアのホームグラウンドとしても利用されている陸上競技場のほか、上の原グラウンドや野球場、テニスコートなどのスポーツ施設を整備してきた。

上記スポーツ施設のほかに、公園区域の大半が斜面緑地と谷戸の草地広場で構成され、自然散策などの利用も多い。

図 1-2. 野津田公園航空写真



図 1-3. 野津田公園現況図



規模	393,289.21 m ²
種別	総合公園
住所	町田市野津田町 2035 番
開園年月日	1990 年 10 月 1 日
開園時間	午前 6 時～午後 8 時
主要施設	陸上競技場、テニスコート、上の原グラウンド、野津田球場、多目的広場、芝生広場、村野常右衛門生家、湿性植物園

3. 野津田公園整備計画の変遷

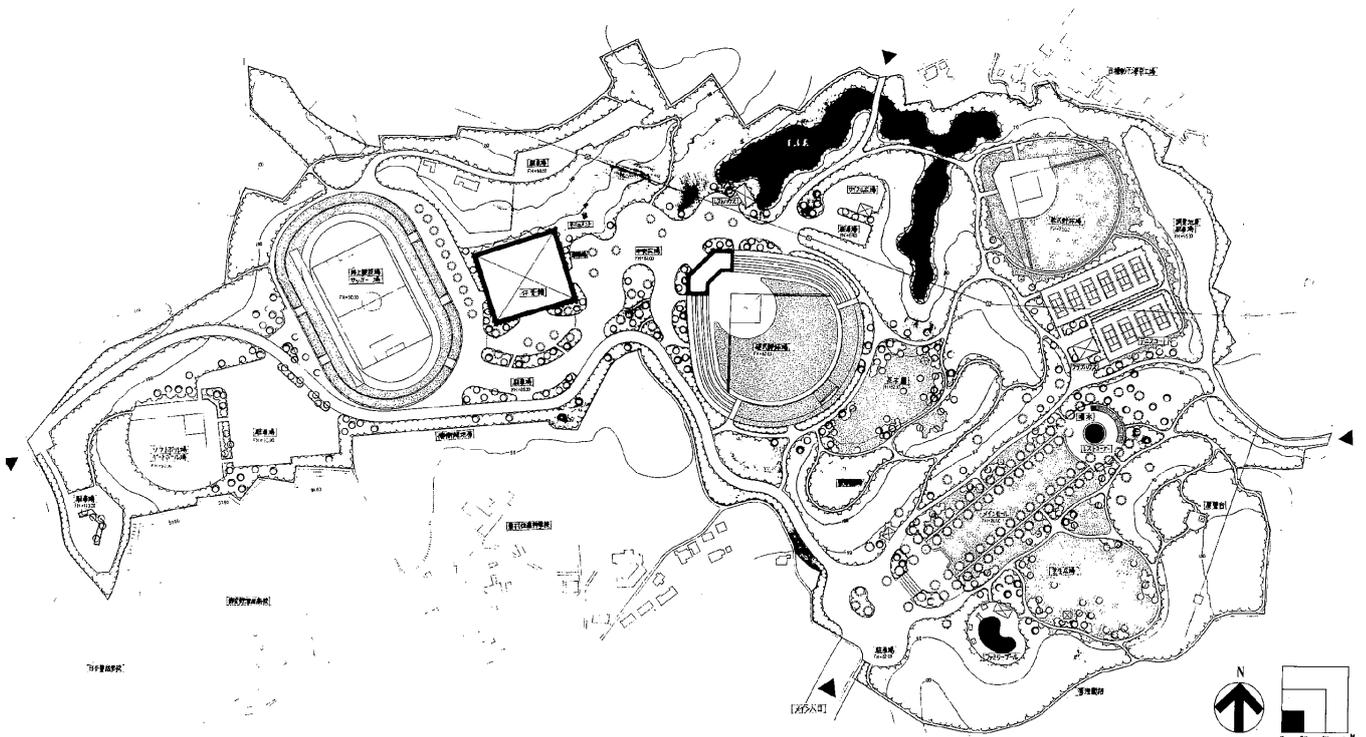
野津田公園は、1981年の基本構想、基本計画に基づく整備を行ってきた。以下に現在に至るまでの計画変遷をまとめる。

1) 町田都市計画 野津田公園基本構想 (1981年12月)

野津田公園について、本格的な運動施設を備えた大規模な総合公園としての基本構想を町田市都市計画野津田公園建設審議会（以下「審議会」という。）に諮問し、審議会において豊かな緑と地形を最大限に生かし、30万人都市にふさわしい施設を備え、市民の誰もが身近にスポーツ・レクリエーションを楽しむことのできる総合公園を目標とした中間答申を受け、基本構想を策定した。

- 公認、公式の各種スポーツ大会ができる運動施設の整備
- 芝生広場や遊歩道、展望台などの「憩いの場」の整備

図 1-4. 野津田公園基本構想図



2) 町田都市計画 野津田公園基本計画 (1987年3月)

中間答申を受けて策定した「野津田公園基本構想」に基づき 1987年3月まで通算19回にわたる審議を重ねた結果、以下の二点を基本方針として審議会の最終答申を受け、基本計画を策定した。

- 多くの市民が渴望している都市規模にふさわしい、スポーツ施設を中心とした「総合公園」とする。
- 緑豊かな自然と調和した公園とする。

図 1-5. 野津田公園基本計画図

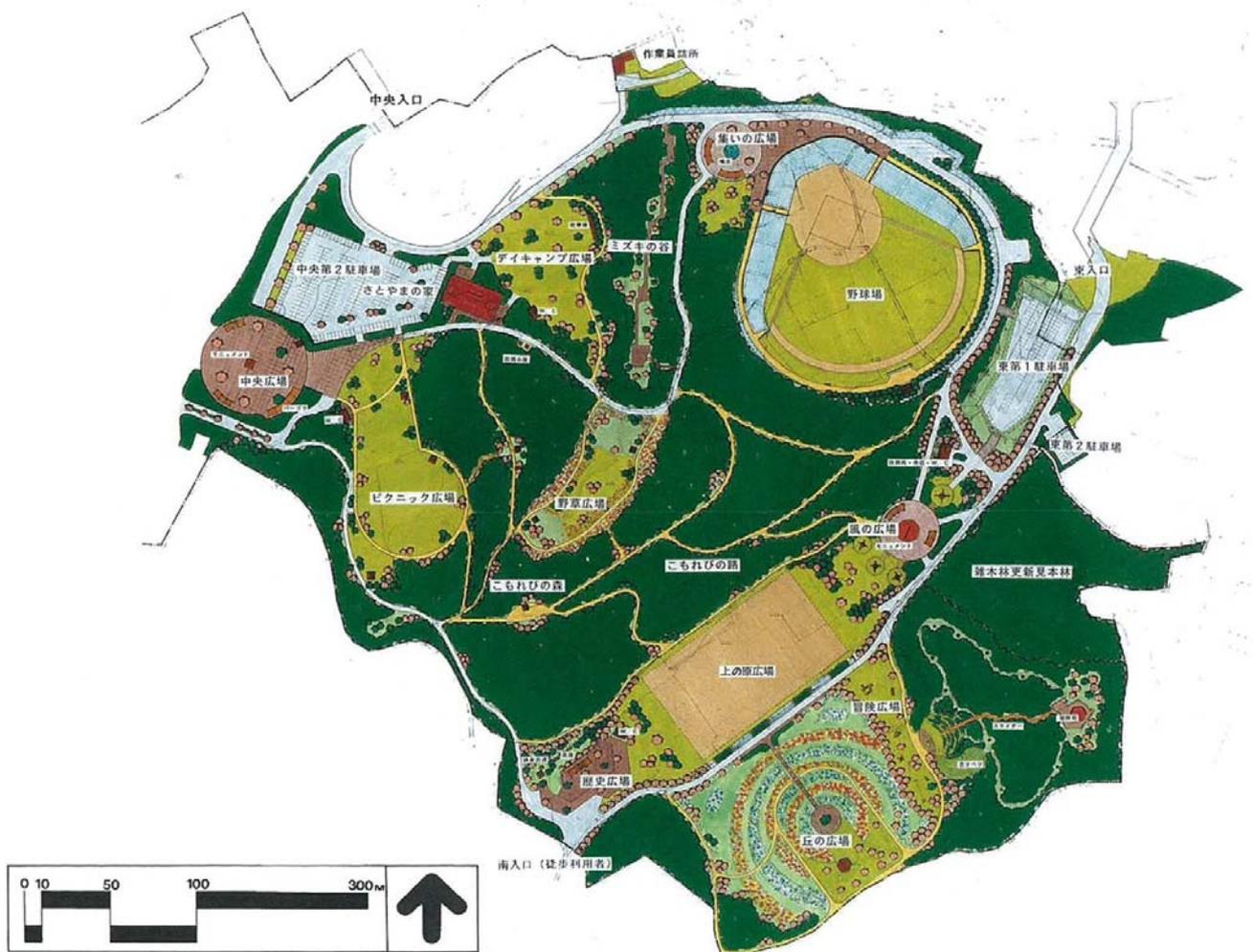


3) 町田都市計画 野津田公園基本計画（第2期整備計画）（1993年3月）

1987年3月に取りまとめた基本計画に基づいて整備を進め、1990年10月に第1期整備区域である西側の約16.4haを開園した。その後、野津田公園を取り巻く情勢の変化に伴い、基本計画の考え方を継承した上で第2期整備区域の計画を策定した。

- 総合体育館やテニスコート（成瀬地区）、野球場（鶴川地区）の新設などスポーツ施設整備充実に伴う導入施設の見直し
- 周辺の道路整備等による公園への進入路の見直し
- 公園内の自然や郷土の文化等を生かした公園の整備
- 雑木林の保全 など

図1-6. 野津田公園基本計画図（第2期整備計画）



4) 導入施設の変遷

野津田公園における導入施設計画の変遷と現在の状況について下表に示す。

表 1-1. 野津田公園における導入施設計画の変遷と現在の状況

		野津田公園基本 構想 (1981. 12)	野津田公園基本計画 (1987. 3)		現在の施設整備 の現況
				第 2 期整備計画 (1993. 3)	
運動施設	硬式野球場	19,000 m ² 両翼 92m センター120m ナイター照明	19,000 m ² 両翼 92m センター120m ナイター照明	—	—
	軟式野球場	14,000 m ² 両翼 86.9m センター105m	14,000 m ² 両翼 86.9m センター105m	硬式野球場へ変更 19,000 m ² 両翼 92m センター120m ナイター照明	8,500 m ² 両翼 80m センター 90m 照明施設なし
	ボール ソフト	5,500 m ² ゲートボールと兼用	5,500 m ² ゲートボールと兼用	5,500 m ² ゲートボールと兼用	—
	陸上競技場	23,000 m ² サッカー場兼用	23,000 m ² サッカー場兼用	23,000 m ² サッカー場兼用	30,000 m ² Jリーグ対応 1万人収容スタンド 第三種公認陸上競技場
	テニ ス場	10,000 m ² 10面 一部ナイター照明 クラブハウス	10,000 m ² 11面 一部ナイター照明 クラブハウス	—	3面 砂入り人工芝
	体育館	5,600 m ² 武道も併用できるよ う計画する 管理事務所を含む	5,600 m ² 武道も併用できるよ う計画する 管理事務所を含む	5,600 m ² 武道も併用できるよ う計画する 管理事務所を含む	—
	サイク ル広場	自転車練習コーナー としての利用	自転車練習コーナー としての利用	—	—
	プ ァ ミ リ ー	2,500 m ²	—	—	—
修景施設	モ イ ン	長さ 220m、幅 70m	長さ 220m、幅 70m	メインモールから上 の原広場へ変更	メインモールから上 の原広場へ変更
	調 整 池	一部は修景地 1,000t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景地 1,000t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景地 1,000t/ha 軟式野球場、駐車場 兼用	一部は修景地、園地 1,000t/ha
便 益 施 設	駐 車 場	約 1,000 台を目標と し、障がい者専用 10 台とする	約 1,000 台を目標と し、障がい者専用 10 台とする	約 1,000 台を目標と し、障がい者専用 10 台とする	626 台

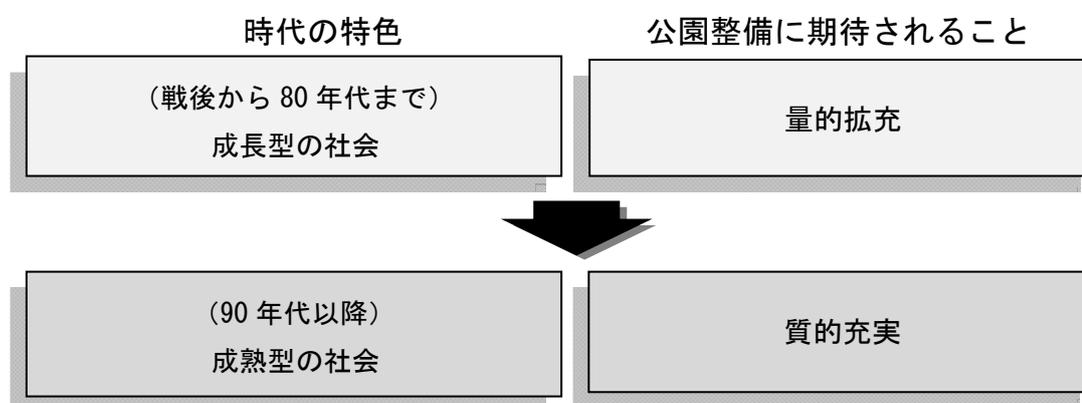
4. 公園をとりまく社会状況の変化

基本計画策定のための検討を行うにあたり、公園をとりまく社会状況の変化を把握し、今後の公園のあるべき姿を想定する。

近年、少子・高齢化、人々の健康志向、国際化など我々をとりまく社会状況は大きく変わってきている。こうした中で、公園に対する市民の期待や公園の持つ意義、地域にもたらす役割等も時代と共に変化してきている。

1) 公園整備に期待されることの変化

戦後の高度経済成長期からいわゆる「バブル経済が破綻」した1990年代初頭までの間において、都市公園整備は国民一人当たりの公園面積を増やすといった「量的な拡充」を中心に進められてきた。その後、社会が成長型から成熟型へ方向が転換し、都市公園整備はその「質的な充実」が求められるようになった。



2) 子どもの運動能力や体力に関わる状況の変化

親の世代(1981年)と今の子ども達(2011年)の身長及び基礎的運動能力の比較について、身長は今の子ども達が親の世代を上回っている一方で、50m走及びソフトボール投げでは、今の子ども達が親の世代の記録を下回っている。

このように、子どもの運動能力や体力が低下傾向にあり、子どもの体力向上につながるような自然遊びの空間やスポーツ施設が求められている。

表 1-2. 身長・基礎的運動能力の比較

(出典 公益財団法人日本レクリエーション協会ホームページ)

	男 子		女 子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	142.8	145.0(↑2.2)	145.0	146.7(↑1.7)
50m 走 (秒)	8.8	8.9(↓0.1)	9.0	9.2(↓0.2)
ソフトボール 投げ (m)	34.8	29.7(↓4.1)	20.8	17.5(↓3.3)

※親の世代は1981年度、今の子どもは2011年度時点での11歳

3) 高齢者・障がい者に関わる状況の変化

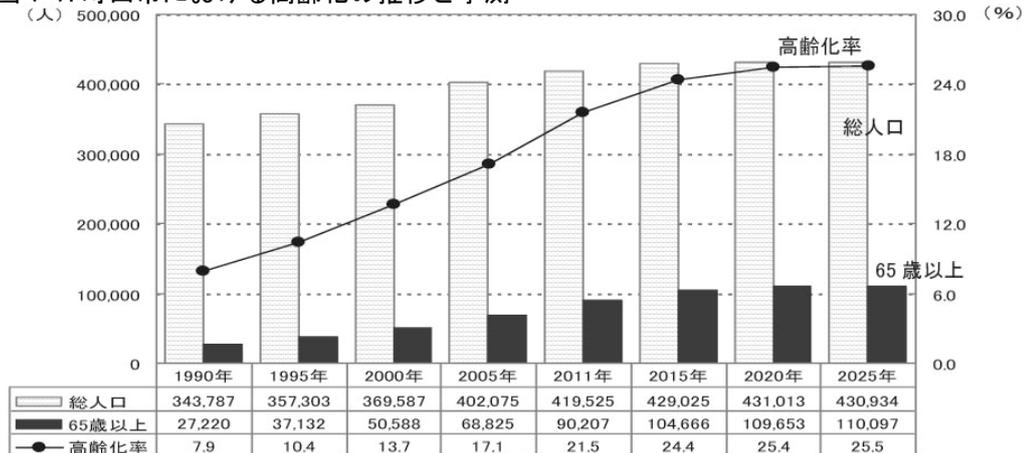
町田市の高齢化率は、2008年には20%を超え、市内総人口の5人に1人が高齢者となり、さらに2015年には下図のように24.4%になることが予測される。

「町田市高齢者福祉計画（2012年度～2021年度）」では、計画目標のひとつに「地域参加と生きがいつくりの推進」をあげ、「高齢者の生きがい・集う場づくり」「健康づくり・介護予防の推進」等の基本重点施策を挙げている。

障がい者についても、「町田市障がい者総合計画」の中で、福祉のまちづくりを推進し、「バリアフリーのまちづくり」「余暇活動の充実」など本公園等の野外空間に関わる課題や方向性を挙げている。

また、野津田公園では、パラリンピック出場選手の練習場として活用していることや2013年度に実施した「障がい者のための陸上競技教室」（全11回）において小学生から40代まで幅広い世代の参加があった。

図 1-7. 町田市における高齢化の推移と予測



資料:1990～2011年は、各年1月1日(住民基本台帳)

2015年以降は「町田市将来人口推計」(2010年10月1日の住民基本台帳を基準値とした推計)

4) スポーツ施設の状況の変化

市内には現在、陸上競技場・体育館・野球場・運動広場・テニスコート・屋内プール・グラウンドの26施設が整備されている。

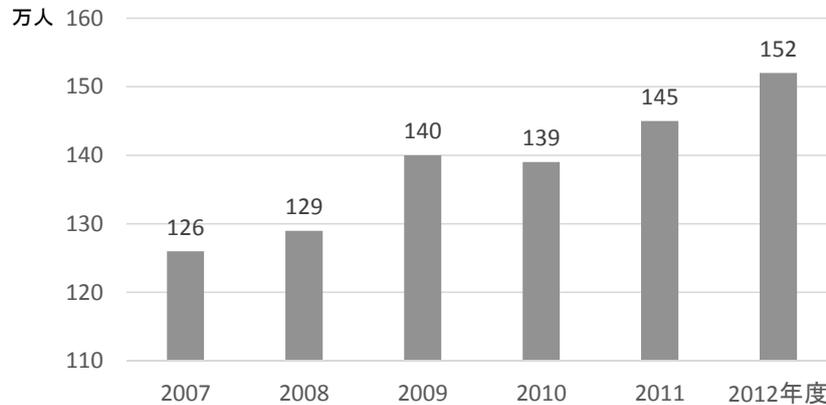
2012年度には年間延べ150万人以上の方に利用されており、利用率も平日を含めて体育館では9割以上、テニスコートでは8割程度、平日利用の少ない野球場やグラウンドでも5割程度と高い水準で推移している。

体育館では利用抽選申し込みの倍率が3倍を超えるなど、利用者のニーズは高く、さらなるスポーツ施設の充実が求められている。また、近隣の自治体と比較しても、スポーツ施設が充実しているとはいえない状況である。

表 1-3. スポーツ施設数等の順位（多摩 26 市中、市民一人当たり）

多目的グラウンド（面数）	15位
テニスコート（面数）	19位
体育館（面積）	24位

図 1-8. スポーツ施設の年間利用者数の推移



5) 国際的スポーツイベントの開催

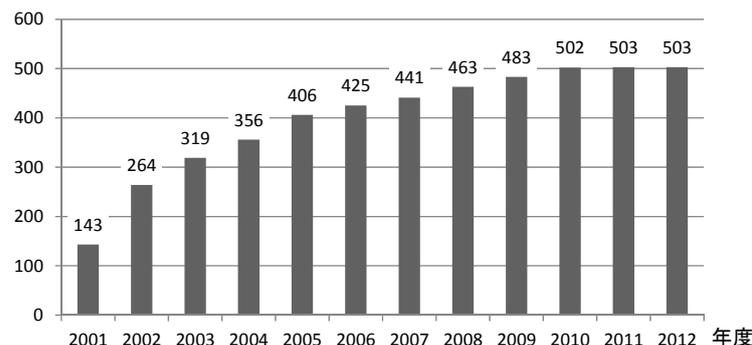
2020年のオリンピック・パラリンピックの開催都市に東京が決定したことから、今後参加国は練習施設・滞在施設を有する地域をキャンプ地として選定することになる。

Jリーグ対応の第三種公認競技場である都内有数の陸上競技場を有する野津田公園は、東京都内において重要なオリンピックの拠点として、キャンプ地の招致を目指している。一方、野津田公園は、歴史的資産や田園風景など豊かな自然環境が保全されてきた北部丘陵エリアに位置し地域の里山の文化を伝える拠点となっている。

6) 自然や緑とのふれあいに対するニーズの変化

東京都の「緑のボランティア活動登録制度」におけるボランティア活動希望者の登録数をみると、市民ボランティアによる樹林地の手入れや公園の清掃等、様々な緑の保全・創出に向けた活動に主体的に参加する市民が増加するなど、自然や緑とのふれあいに対するニーズが増えていると言える。

図 1-9. 緑のボランティア活動希望者の登録数



※東京都緑のボランティア（活動希望者）登録一覧より作成

5. 上位関連計画

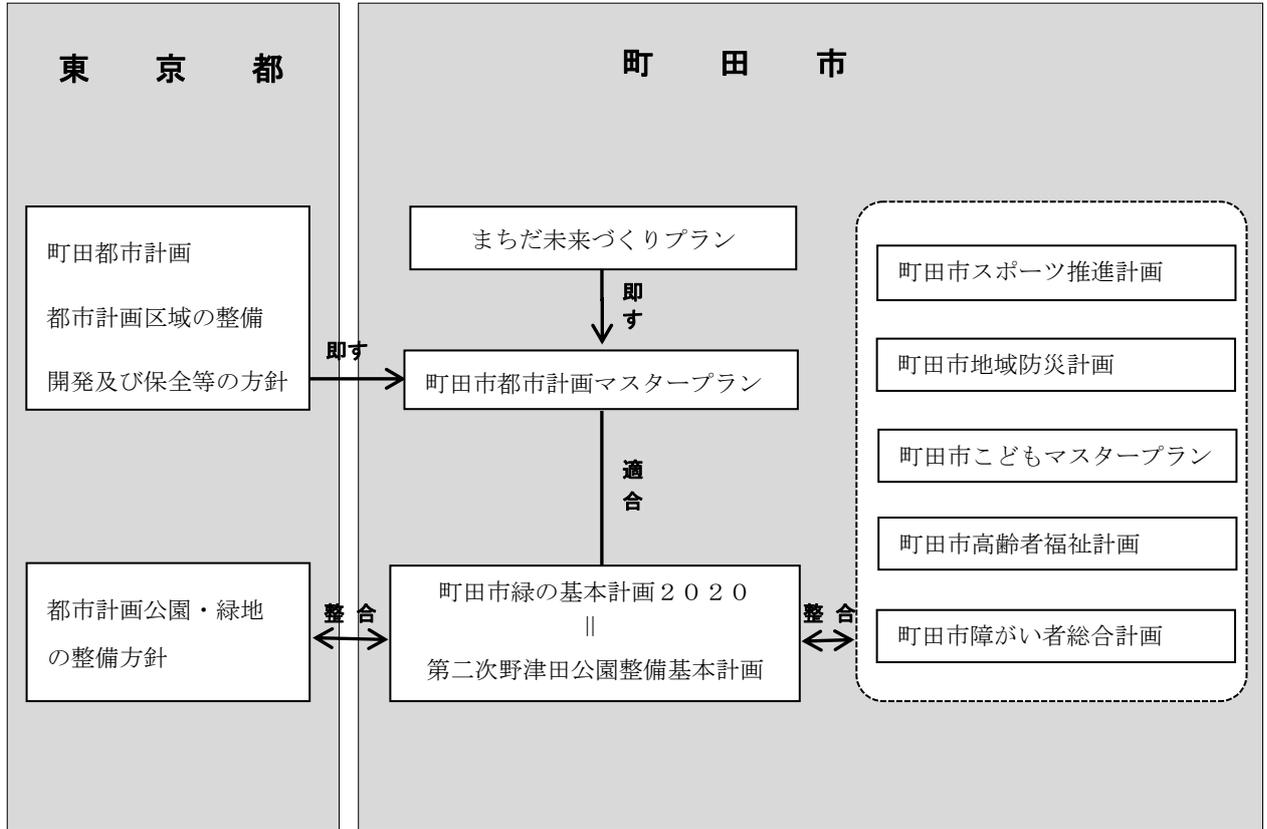
本計画の上位計画及び関連計画を市の総合計画やスポーツ推進計画などから公園整備の前提となる計画を以下にまとめる。

表 1-4. 野津田公園に關係する上位関連計画の内容

計 画 名	上位関連計画と整合する必要がある内容
<p>まちだ未来づくり プラン (2011年12月)</p>	<p>「基本政策2 文化芸術活動やスポーツが盛んなまちをつくる」について、野津田公園に關係する内容として以下の施策及び現況と課題があげられている。</p> <p>政策2 誰もがスポーツに親しめる環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 施策1 スポーツ活動の振興 ● 施策2 トップレベルのスポーツを楽しめる環境づくりの推進 ● 施策3 アスリートやスポーツチームの支援 <p>現況と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市民意識調査によると、スポーツ活動を行う機会を持つことができた市民の割合は15%程度となっており、特に、働き盛りの世代の市民が、なかなかスポーツ活動を行う時間や機会を確保できていない状況にあります。 ● スポーツに親しむ場として、公立小・中学校の校庭や体育館の開放、スポーツ広場の提供などを行っていますが、施設の拡充や利用時間の延長などの要望も多く、市内のスポーツ環境は必ずしも充実しているとはいえません。 ● 地域スポーツクラブは、スポーツを通じた地域交流や世代間交流の場となるため、今後さらなる普及が期待されます。 ● 市内のスポーツ施設・競技場は、プロスポーツなどの大規模な大会やイベントの興行に有効に活用されておらず、市内でトップレベルのスポーツを観て楽しめる機会や場が十分ではありません。 ● 市内には実力あるアスリートやホームタウンチーム、スポーツの強豪校が数多く存在しており、これらのスポーツ資源を、まちの魅力の向上や人々の交流機会の創出、次世代の人材育成などに活かすことが期待されます。
<p>町田市都市計画 マスタープラン (2013年6月)</p>	<p>北部の丘陵地域のまちづくりの構想のうち、野津田公園では以下の方針が示されている。</p> <p>方針① にぎわいと交流を創出するまちづくり（拠点活性化）</p> <p>ア) スポーツなどを通じた交流の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野津田公園の陸上競技場、小野路公園の野球場など既存のスポーツ施設を活かし、人々がスポーツを楽しみながら交流を図れる場づくりを進めていきます。 ・ 野津田公園では、魅力ある公園づくりに向けた基本計画「第二次野津田公園整備基本計画」を策定し、整備を進めていきます。
<p>町田市緑の基本計画 2020 (2011年6月)</p>	<p>野津田公園は、都市基幹公園の総合公園に位置づけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合公園・・・都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積10～50haを標準として配置する。

計 画 名	上位計画と整合する必要がある内容
<p>町田市スポーツ 推進計画 (2014年3月)</p>	<p>野津田公園に関係する内容は以下のとおりである。</p> <p>戦略2 トップスポーツ支援 (施策4)「トップスポーツ」の環境づくり (1) 競技スポーツの場の整備 ・【重点施策】オリンピックキャンプ地招致 ・スポーツ施設の有効活用策の検討</p> <p>戦略3 スポーツ環境の整備 (施策5) スポーツのまちづくり (2) 公園等におけるスポーツ施設の整備 ・【重点施策】野津田公園におけるスポーツ施設整備</p>
<p>町田市地域防災計画 (2012年12月)</p>	<p>第2章 災害予防計画の「第4 オープンスペースの確保」において、野津田公園に関する計画の内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存都市計画決定公園の見直し、大規模公園、住区基幹公園の整備促進 ・未利用地の有効活用 ・既存公園の避難広場（避難場所）として、安全性向上のための整備の実施
<p>町田市子ども マスタープラン (2004年12月)</p>	<p>野津田公園に関係する内容は以下のとおりである。</p> <p>基本目標 III 子どもが地域の中で大切にされている 重点目標 1 人と人が関わりつなげる場をつくる（家庭・施設・学校・地域・行政の協働） 個別目標（3）体験できる場（多様な体験ができる機会を増やす） 個別目標（4）交流できる場（子どもや子育てしている人がふれあい、情報交換できる場を増やす）</p>
<p>町田市高齢者 福祉計画 (2012年3月)</p>	<p>野津田公園に関係する内容は以下のとおりである。</p> <p>基本目標 1 「地域参加と生きがいづくりの推進」における野津田公園に関する施策。 基本施策（1）高齢者の生きがい・集う場づくり （2）健康づくり・介護予防の推進</p>
<p>町田市障がい者 総合計画 (2007年3月)</p>	<p>基本方針「福祉のまちづくりの推進」において、野津田公園に関する内容は以下のとおりである。</p> <p>(1) バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくり ①バリアフリーのまちづくり</p> <p>(4) 余暇活動の充実 ① 障がい者スポーツ大会のあり方を検討 ② 障がい児スポーツ教室の開催</p>

図 1-10. 上位関連計画との関係



6. 野津田公園の現況

1) 公園利用状況

(1) 利用者数

①運動施設

野津田公園の運動施設利用者数は、下表の「2012 年度運動施設利用者数」からおおむね以下のようにまとめられる。

Jリーグの公式戦が実施されている11月までの運動施設の利用者数は1万人を上回り、特に4月、5月と7月は2万人に近い利用者数を示す。反面、公式戦が実施されていない12月、1月の運動施設の利用者数数は5000人以下となり、その差は明確である。

図 1-11. 運動施設の利用者数 (2012 年度)



※「野津田公園指定管理業務 2012 年度資料及びゼルビアホームページ」より作成

②園地施設

下表に 2012 年度の野津田公園における園地施設利用者数を示す。園地施設に関しては、遊具広場や芝生広場の利用者数が多く、一年の中でも4月～6月、10月に利用が多くみられる。また、5月にはばら園が見頃を迎え利用者数が増加する。

表 1-5. 園地施設の利用者数 (2012 年度)

※網掛け部分は利用者が高いことを示す

施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
多目的広場	120	138	162	99	53	46	126	54	46	47	6	195	1092
ばら園	88	1,147	761	101	52	60	260	176	45	55	36	40	2821
壁打ちテニス	422	427	393	361	434	333	419	344	269	381	336	357	4476
展望広場	118	120	92	95	103	122	265	69	72	63	74	115	1308
遊具広場	1,514	1,366	1,092	453	544	909	1,199	980	518	716	114	330	9735
芝生広場	1,985	1,685	1,293	446	448	869	1,233	710	393	437	417	1032	10948
ピクニック広場	165	154	400	4	13	45	509	859	43	17	125	219	2553
上の原広場	98	75	53	71	3	4	111	85	0	38	22	29	589
ススキ草地	170	51	229	68	17	28	336	126	27	50	51	67	1220
計(人)	4,680	5,163	4,475	1,698	1,667	2,416	4,458	3,403	1,413	1,804	1,181	2,384	34,742

※「公園管理者の巡回時における集計」より作成

(2) 利用者層

運動施設・園地施設に対する利用者層について以下に示す。

① 運動施設

陸上競技場ではJリーグ公式戦が開催されており、その他の運動施設では市民大会等が開催されている。

運動施設の主な利用

- 陸上競技場：Jリーグ公式戦
- 上の原グラウンド：町田サッカー協会
- 野津田球場：町田市少年野球連盟
- 野津田公園テニスコート：町田市ソフトテニス連盟

② 園地施設

下表に園地施設における団体利用状況について示す。幼稚園や小学校による遠足、園外保育といった利用が多い。

表 1-6. 園地施設の団体利用状況 (2012 年度 4 月～1 月)

活動団体	件数	主な活動内容
幼稚園・保育園	61	遠足、園外保育、オリエンテーション、写生会、スタンプラリー等
小学校	22	遠足、生活科見学、社会科見学、昆虫採集
里山活動団体	17	里山ワークショップ、環境学習イベント、更新実験林手入れ等
市事業	2	講座、市民大学、安全講習会等
地域事業	12	消防訓練、地区交流会等
その他	5	オリエンテーション、花見、映画・ドラマ撮影等
計	119	

※「野津田公園指定管理業務 2012 年度資料」より作成

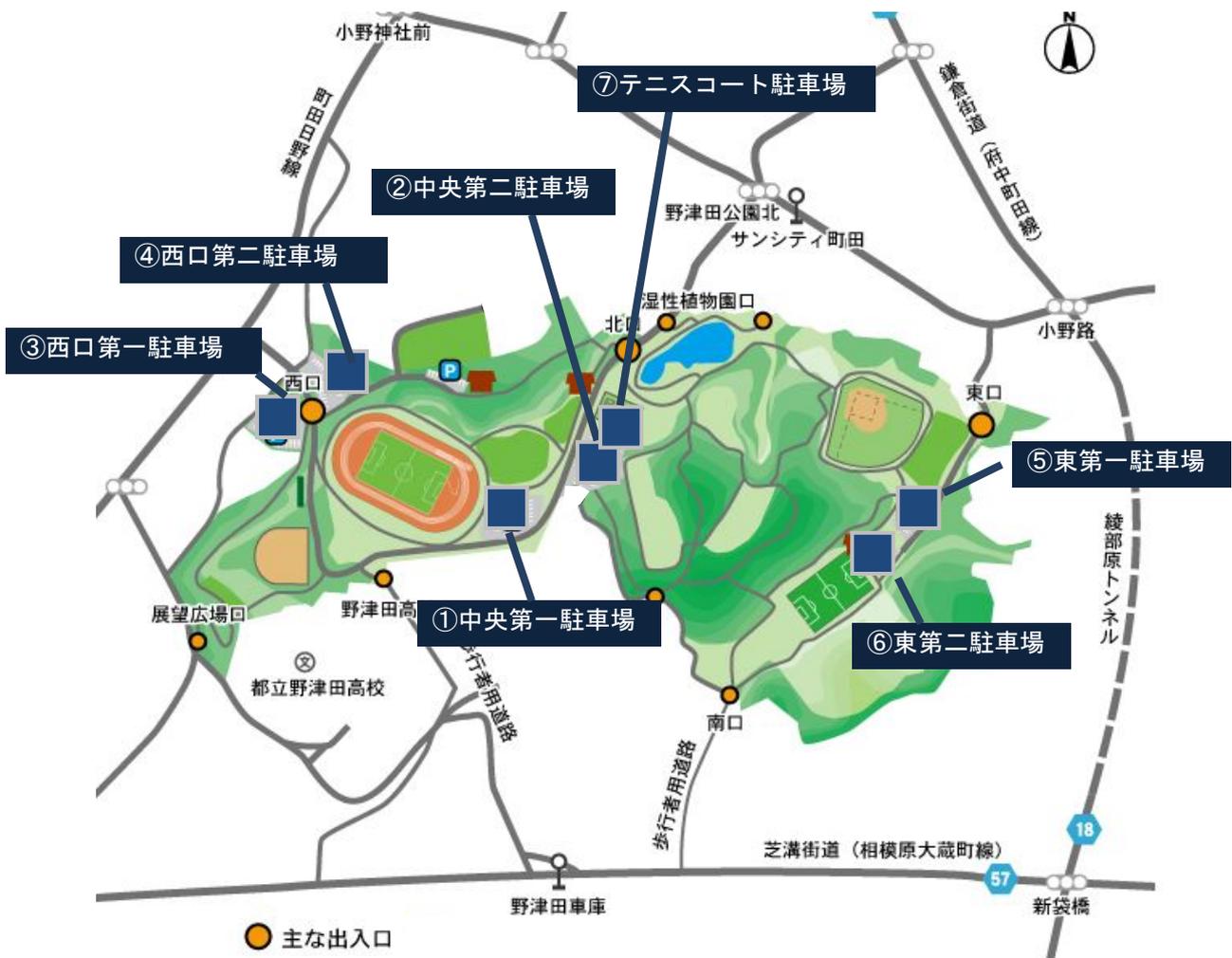
(3) 公園内駐車場の現状

野津田公園の駐車場は、区域の中央、東側、西側それぞれに2箇所ずつ、計7箇所、626台分が整備されている。

表 1-7. 公園内駐車可能台数

名称	駐車可能台数
①中央第一駐車場	103台
②中央第二駐車場	139台
③西口第一駐車場(拡張部共)	248台
④西口第二駐車場	39台
⑤東第一駐車場	50台
⑥東第二駐車場	25台
⑦テニスコート駐車場	22台
合計	626台

図 1-12. 駐車場の位置



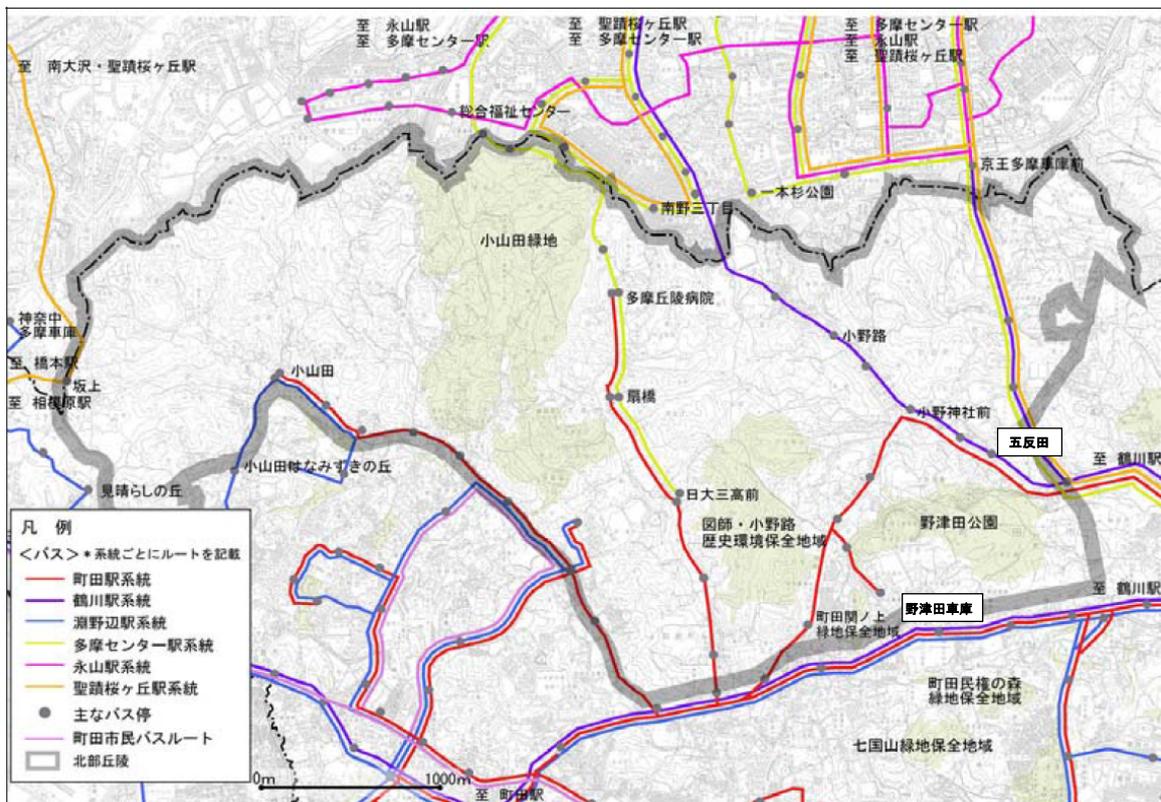
②路線バス

町田駅や鶴川駅のほか、隣接市にある橋本駅、淵野辺駅、多摩センター駅からバス路線があるが、全体的に野津田公園へのバスルートは少ない。

野津田公園内には、イベント時のみのバス停しか存在しないため、交通の利便性が低いといった状況である。また、各鉄道駅より野津田公園への路線バスの経路は以下の通りである。

- ・町田駅、町田バスセンター～野津田車庫（所要時間 25 分～30 分）
- ・鶴川駅～野津田車庫（所要時間 10～15 分）
- ・多摩センター駅～五反田（所要時間 25 分～30 分）

図 1-14. 野津田公園周辺のバス路線（出典 町田市北部丘陵活性化計画）



(2) 周辺のレクリエーション分布からみた野津田公園の役割

市内には、陸上競技場・体育館・野球場・運動広場・テニスコート・屋内プール・グラウンド等の26施設が整備されている。このうち、野津田公園には陸上競技場・野球場・テニスコート・グラウンドが存在するが、現状では競技型スポーツ施設が主体となっており、健康スポーツ活動に対応する施設は十分に整っていない。

また、野津田公園はJリーグ所属チームの活動拠点として都市型観光の拠点となりつつあることに加え、野津田公園の位置する一帯は、レクリエーション資源・施設が多く分布していることから、これらの資源を結びつける重要な役割を持つことも期待される。

図 1-15. 市内のスポーツ施設整備状況

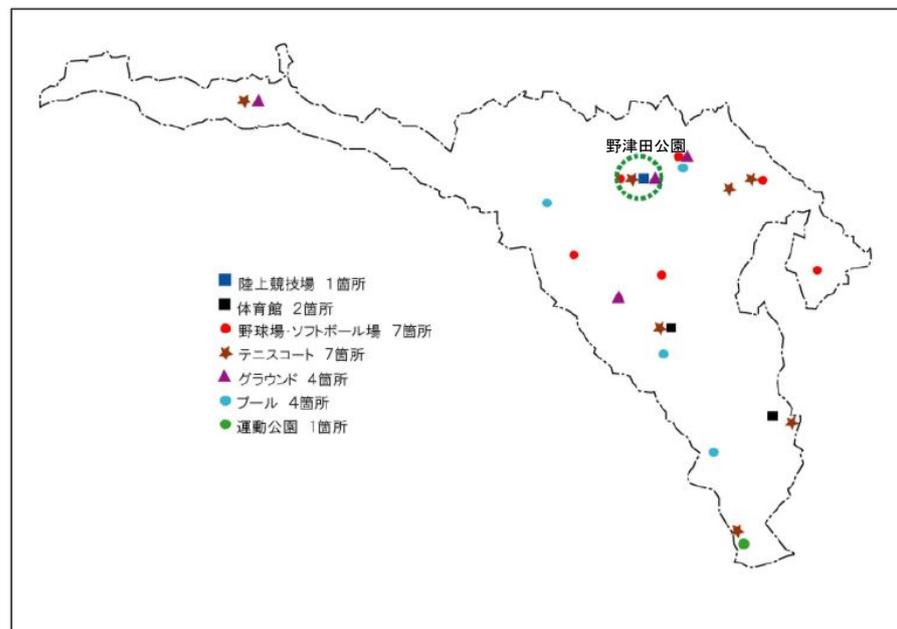


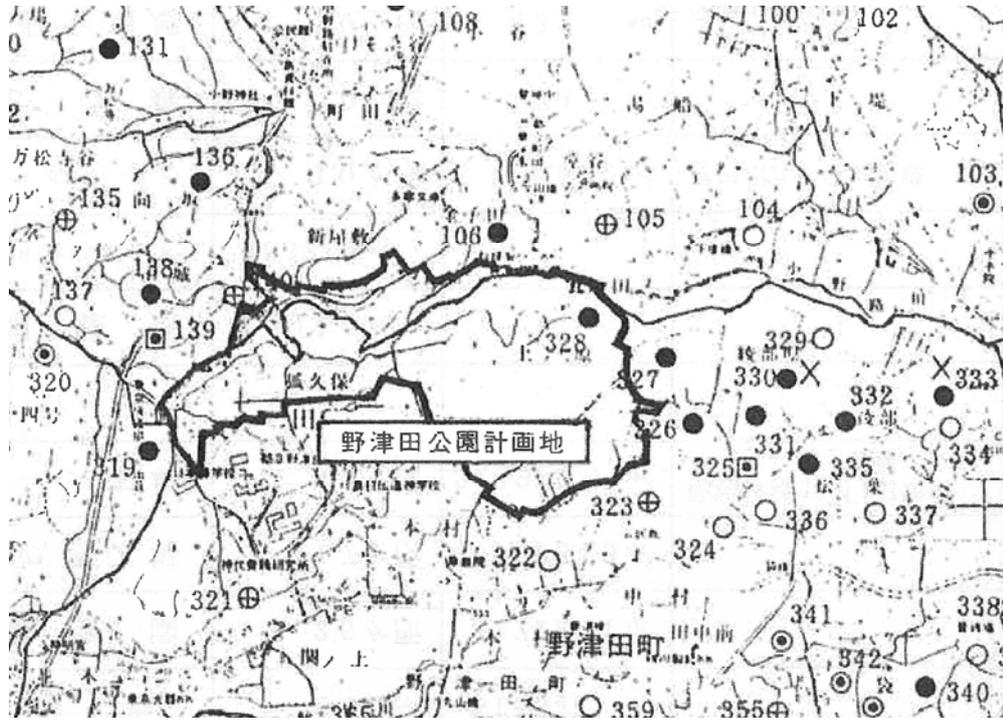
図 1-16. 野津田公園周辺一帯の観光・レクリエーション資源の分布



(3) 歴史的資源

多摩丘陵地帯には遺跡が多く存在し、町田市内においても 500 以上の遺跡地点が現存している。これら遺跡地点の過半数である 300 箇所以上は、縄文時代の遺跡であり、本計画地内においても「野津田上の原遺跡」が存在している。

図 1-17. 野津田公園周辺の遺跡分布 (出典 野津田公園基本計画)



凡例	×	先縄文時代遺跡・資料発見地点	◎	縄文時代と歴史時代の遺物が複合する遺跡
	●	縄文時代遺跡、または縄文時代遺物を主とする遺跡	○	古墳時代以降の土師・須恵式期の遺跡
	□	弥生時代遺跡	⊕	散布土器片によって時代区分しがたい遺跡
	◻	弥生時代遺跡と縄文時代遺跡とが複合する遺跡	—	町界線(昭和48年11月30日以前のもの)
	●	古墳・横穴、または塚を形成するもの		

昭和 47 年 12 月 調 町田市遺跡分布図より

3) 自然環境

(1) 地形・水系

町田市の地形は、西側の関東山地から丘陵地、台地、低地へと段階的に変化している。市域のほぼ全域が八王子市から連なり、三浦半島へと続く多摩丘陵に属している。丘陵地では、鶴見川、恩田川、真光寺川が流れ、これら河川の支流が多くの谷戸環境を形成している。

地質的な条件については、多摩丘陵の地層を構成している砂泥互層が、町田市域の最も広い面積を占める。これは、鶴川互層と呼ばれ、黄色浮石層の細砂と凝灰質の粘土岩の互層であり、貝化石の出土も多いとされる。

水系については、本計画地は鶴見川流域に属し、計画地北東側の小野路川を經由し大蔵町で鶴見川に流下している。

野津田公園においては、多摩丘陵の中央部にあたり、一部山林に食い込んだ谷もあり、複雑な谷戸地形が形成されている。そのため、公園内の標高差が約60mもある起伏に富んだ地形となっており、特に公園北東側は地形が入り組んで、その起伏が激しい。

図 1-18. 地形区分図（出典 町田市緑の基本計画 2020）

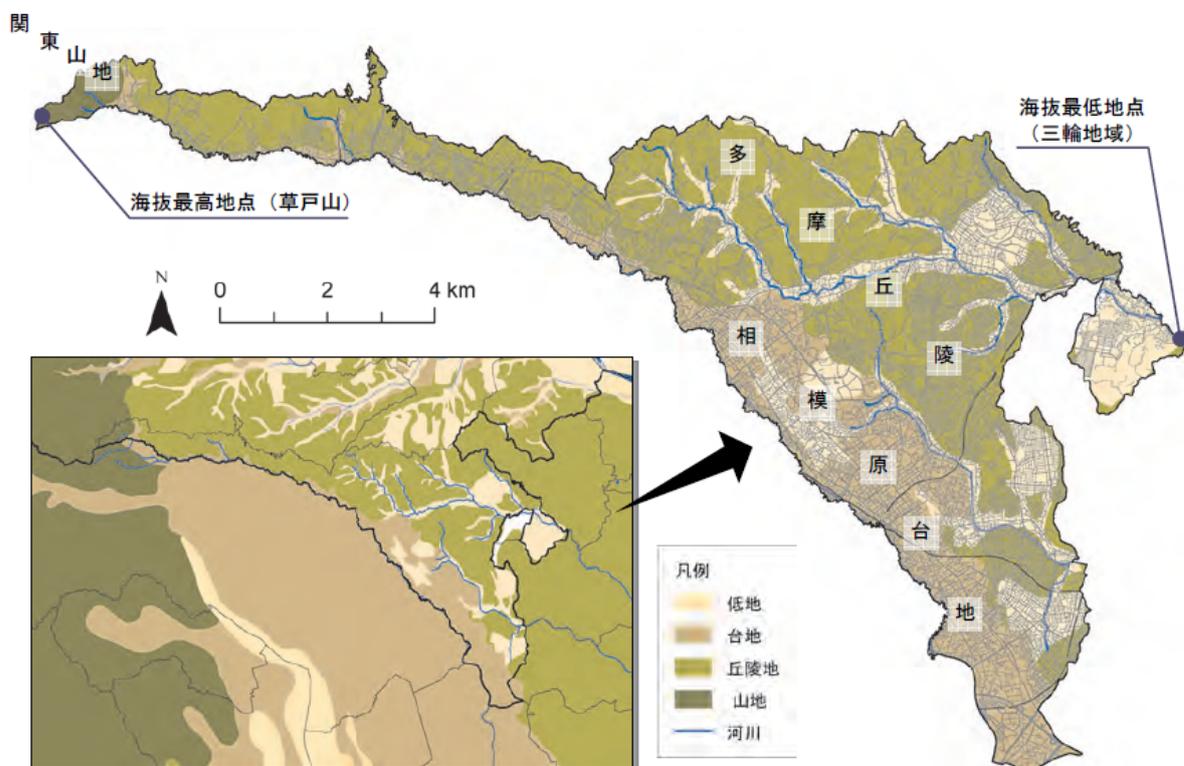
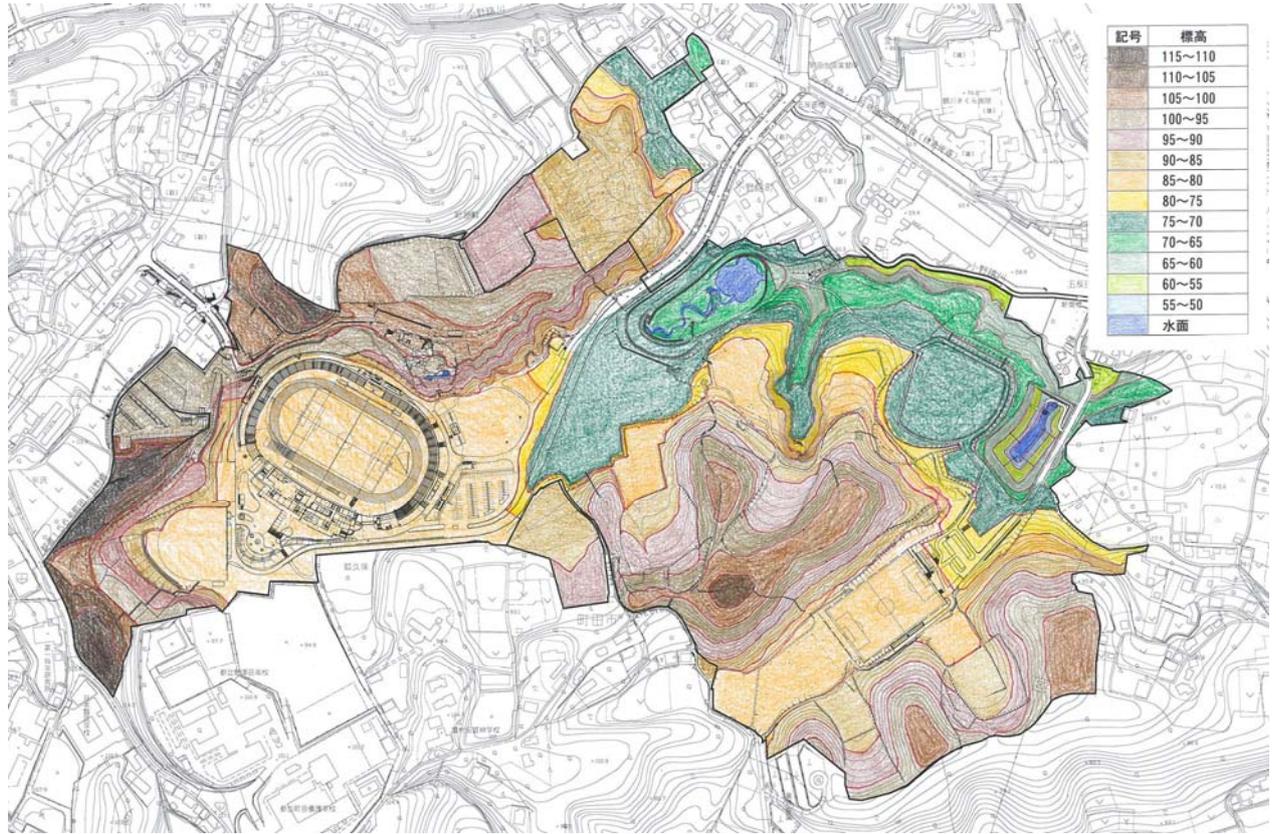


图 1-19. 野津田公園標高区分図



(2) 敷地分析

野津田公園は、ゆるい斜面と山林や、山林にくい込んだ谷地形の一部にシラカシ等の自然林があるが、山林のほとんどがクヌギ、コナラの二次林で構成されている。

公園の東側は、本公園の特徴である大きな2つの谷地形を有している。特に東側の谷戸部は、その平坦な地形を活用したサッカーコートや野球場、ススキ草地や雑木林更新林といった、緑豊かな環境のもとでスポーツが楽しめるエリアとなっている。

公園の西側は、陸上競技場を中心に、テニスコート、遊具施設、芝生広場等の施設が主体となり、植生は施設空間周辺の斜面緑地に帯状に残存する。

図 1-20. 敷地分析図



凡例

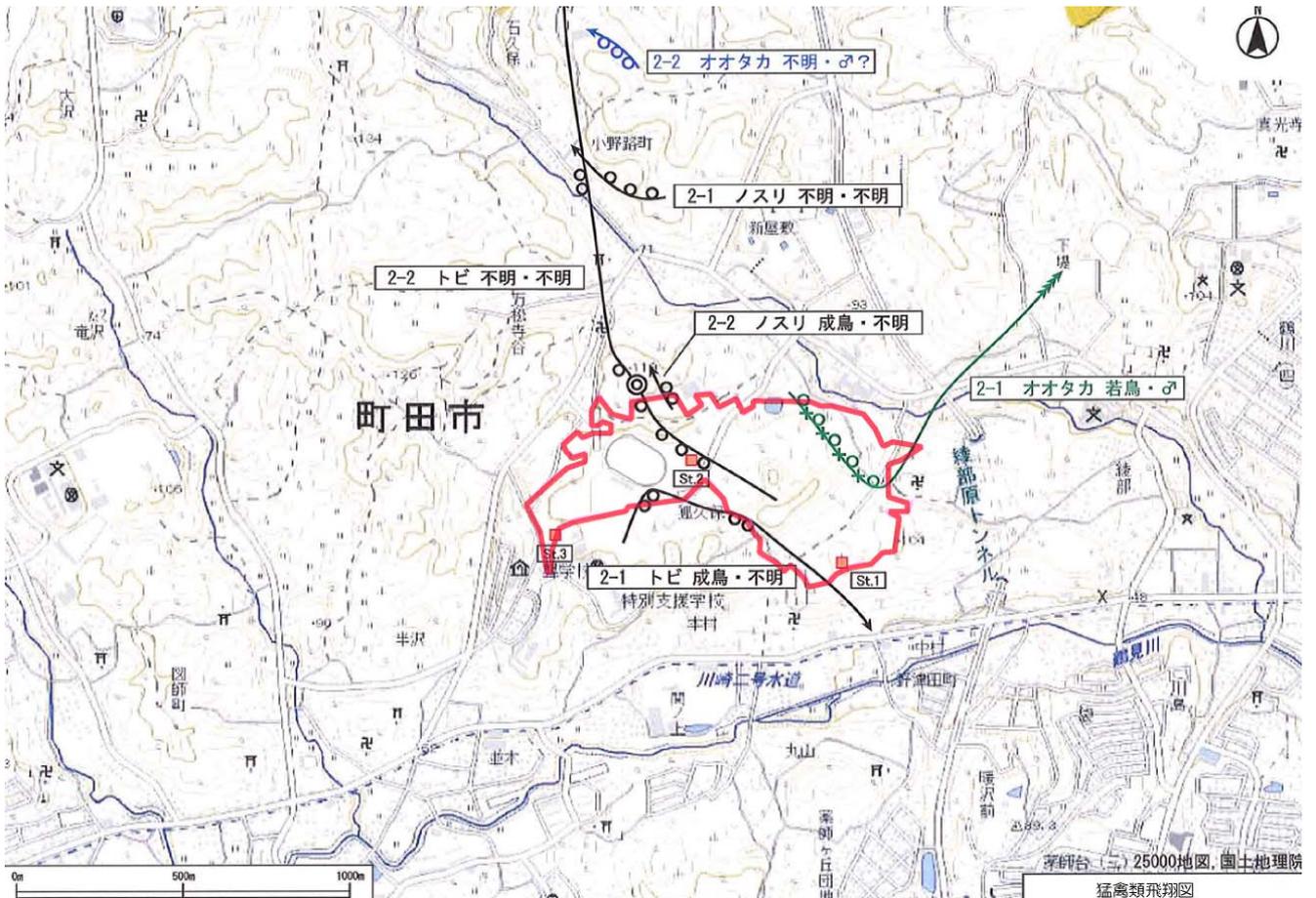
	入口		平坦な地形。		既存スポーツ施設
	車両動線		緩やかな斜面地。		道路・駐車場等
	歩行者動線		斜面地		調整池
	公園敷地境界		急な斜面地		谷地形

(3) 動物・希少動物

計画地区一帯は、都市近郊にありながらオオタカ、キツネ、ムササビの存在も確認されており、北部丘陵と連携する自然環境にある。

野津田公園自然環境調査（秋季）業務委託（2013年1月）調査結果によると、猛禽類では環境の指標とされるオオタカをはじめ、ノスリ、ハイタカ、トビの飛翔が目撃され、トビについては探餌飛翔も確認されている。

図 1-21. 猛禽類飛翔確認位置図



猛禽類飛翔図

出典：自然環境調査

4) 景観

野津田公園一帯は、起伏に富んだ地形を有しており、変化に富んだ多様な地形景観に恵まれている。この中で、周囲の景観を生かした整備を行っており、眺望や水辺の景観要素など、多様で良好な景観を保っている。



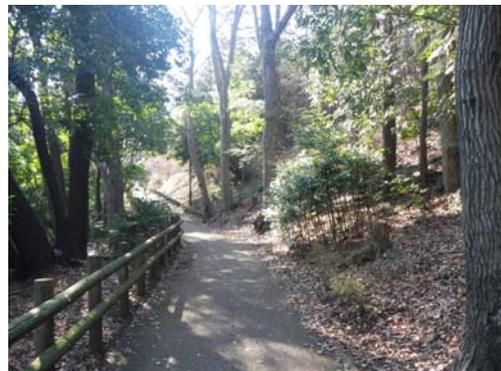
丘陵地の景観 (ばら園)



水辺の景観 (湿性植物園)



眺望の景観 (上の原グラウンド)



維持管理された景観 (園路)



進入路の沿道景観 (臨時駐車場より陸上競技場側)



歴史的景観要素 (村野常右衛門生家)

7. 懇談会等による検討

本計画では、多様な市民・専門家等からの意見を踏まえ、ニーズを的確に捉えた計画立案のため、町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会による検討を行うとともに市民意見の募集を行った。

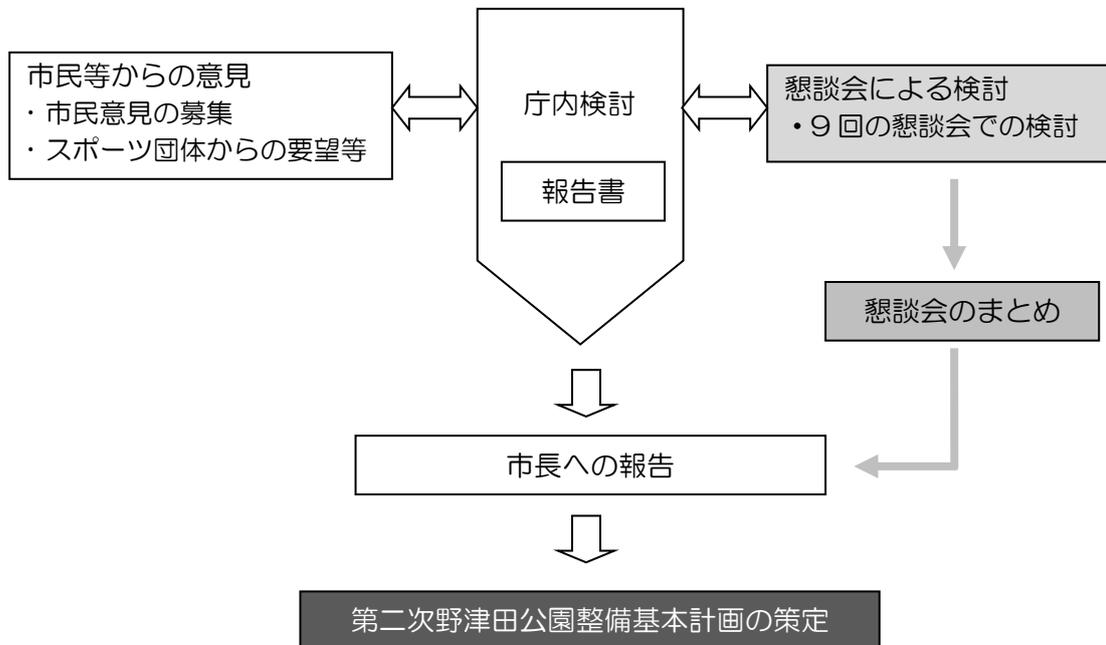
1) 町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会

(1) 町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会の目的

町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会（以下、懇談会、と記す）は、専門的な意見の収集、透明性の向上や市民協働の機会の拡大を図ることを目的として、「町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会設置要綱」に基づいて設置した。

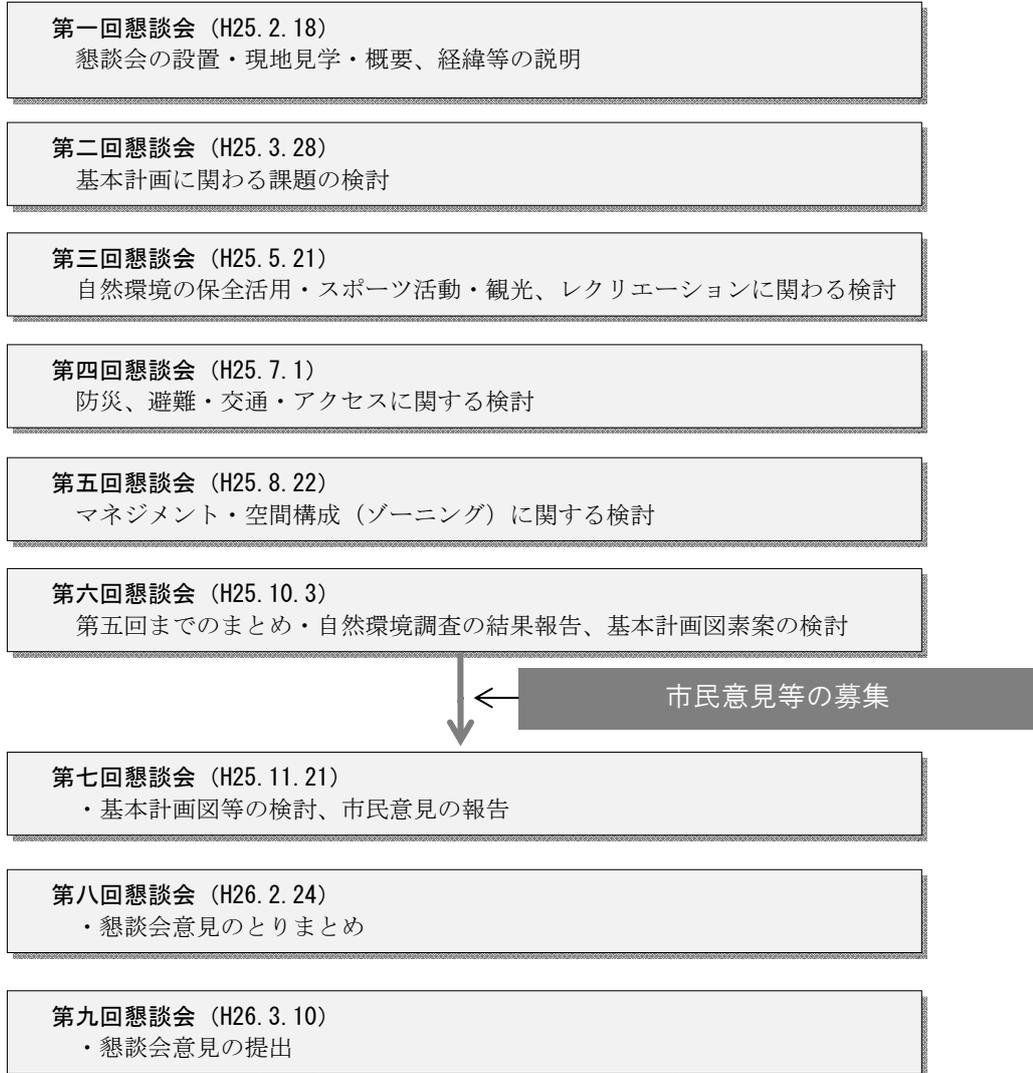
- ① 公園施設の整備に関すること
- ② 野津田公園に来園する者に係る交通の利便性に関すること
- ③ 野津田公園の自然環境に関すること
- ④ 災害が発生した場合における野津田公園の役割に関すること
- ⑤ 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

※町田市第二次野津田公園整備基本計画懇談会設置要綱より抜粋



(2) 懇談会での検討の流れ

懇談会では基本計画の策定にあたって、「スポーツ活動」「観光・レクリエーション」「自然環境の保全・活用」「防災・避難」「交通・アクセス」「マネジメント」の観点から検討した。下図に懇談会での検討の流れは、以下の通りである。



(3) 検討内容の整理

懇談会で検討しまとまった主な意見は以下のとおりである。

検討項目	懇談会で出された意見（主なもの）
スポーツ活動	<ul style="list-style-type: none">● スポーツとしては、気楽に出来るスポーツ（ロッククライミングや綱引きなど）、楽しみながら体を鍛えられる施設があるとよい。● レクリエーションスポーツを楽しめるように用具等の貸出施設があるとよい。● プロサッカーチームは、競技スポーツゾーンで活動すると同時に、上の原グラウンドでサッカー教室を行うとよい。● 障がい者のためのスポーツ教室やウォーキングの介護やタイムトライアルなどの利用も考えてよい。
観光・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none">● 公園には、利用者が集い、飲食や語り、交流などのレクリエーション活動が楽しめる場の整備も必要である。● 有名レストランなどが出店したくなるような公園にする。● 小野路屋敷を再生したようなオーガニックカフェがあってもよい。● トレイルランは、入門的な体験ができる程度であればよいが、現状の地形（起伏）からすると本格的なものとしては相応しくない。
自然環境の 保全・活用	<ul style="list-style-type: none">● 自然をこのまま残すべきである。● 野津田公園の特徴である地形の活かし方や修景を考える必要がある。● ばら園の魅力を高めるなど公園としての魅力を高める検討が必要である。● 公園として整備された自然があってもよい。● 何も施設がないところで遊ぶことに意義がある。

検討項目	懇談会で出された意見（主なもの）
防災・避難	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難場所等として、学校以外の空気を担保する上で野津田公園の役割は大きい。 ● 緊急輸送路、啓開道路からの物資ルートと避難ルートの検討が必要である。
交通・アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ● 集客を高めるには駐車場が必要かもしれないが、里山保全活動のために多少の「不便性」はあってよい。 ● 車椅子利用には不便性があるが、園路は木チップ舗装や柔らかい土がよい。 ● 園路などは、車椅子利用に配慮して、最低でもアスファルトやコンクリート舗装にする必要がある。 ● 野津田公園の主要駅との立地特性から公共交通機関を有効な交通手段と考えるとよい。
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● 官民協働の運営について、市民、ボランティア、NPO 法人と連携し継続していくためのシステムを検討することが必要である。 ● 里山を守るために里山を知ってもらうことが重要であり、ボランティアと市が共存できるシステムや定期的にイベントを行い里山を知ってもらうプログラムが必要である。 ● 古民家の再生や地域の農産物(地産地消)など地域の資源を活かし、公園を含めた地域の魅力アップを図る必要がある。

2) 市民意見の募集

市民意見については、計画案を下記の期間に公開して意見を募集した。公開した資料等については、別途資料にまとめる。

- 意見書の数：406 通（うち無効数：33 通） 意見数：480 件
- 市民意見募集期間：2013 年 11 月 1 日～14 日

表 1-8. 市民意見の集計結果

項 目	件 数
現状維持／自然環境の保護保全の尊重	81
基本計画の方向性(スポーツ施設の増設等)の修正要望	30
素案全体の修正要望	27
その他の修正要望	20
フィールドアーチェリー場の新設要望	15
テニスコートの増設要望	22
マレットゴルフ場の新設要望	54
野球場の増設要望	10
駐車場整備やアクセス向上	14
トレイルランコース、ウォーキングコースの設置	4
サッカー場の増設要望	7
スケートボード場の新設要望	2
屋内施設（武道場、ダンス他）の新設要望	51
アスレチックの整備要望	6
バーベキュー場の整備要望	3
クアハウスの設置	95
その他の賛成	39
合 計	480

表 1-9. 市内のスポーツ団体からの意見要望一覧

	団体名	意見要望の要旨
1	軟式野球連盟	野津田公園内にナイター整備完備の公式野球場の建設を要望。
2	ソフトテニス協会	野津田公園内に公式な大会ができる全天候型テニスコート 8 面以上（新設 5 面以上の増設）及びクラブハウス（トイレ、大会開催時の本部用）と 10 坪程度の倉庫の建設を要望。
3	ソフトボール連盟	野津田公園内にソフトボール場の建設を要望。また、1 か所で 4 面使用できる少年野球、ソフトボール球場を作り、そこをサッカー競技やラグロスにも使える多目的広場とすることを要望。
4	弓道連盟	野津田公園内の、周囲を山林で囲われた比較的平坦なエリアに遠的弓道（和弓）場（長さ 70m×幅 17～9m）の開設を要望。
5	体操連盟	野津田公園内に体育館の建設を要望。
6	アーチェリー協会	野津田公園内に長距離のターゲット場及びフィールドアーチェリー場の開設を要望。
7	マレットゴルフ協会	野津田公園内にマレットゴルフ場の建設を要望（36 ホール）。
8	ダンススポーツ連盟	野津田公園内に 100 人程度で、体操・ダンス等ができる施設の設置を要望。
9	サッカー協会	野津田公園内に公式大会ができる天然芝または、人工芝のサッカー場 2 面の建設を要望。

8. 計画への課題

基本計画を検討するにあたっての主な課題を以下に示す。

1) 健康・スポーツまちづくり

- ① 競技スポーツから健康スポーツまでスポーツ活動の拠点としての活用方法の検討
- ② 誰でも気楽に楽しめるスポーツができる施設等、スポーツ団体、市民要望に基づく導入施設の検討
- ③ 地域貢献活動を視野に入れた活動空間の設定

2) 観光・レクリエーション

- ① 周辺の地域資源との連携を踏まえた公園施設と動線の設定
- ② 利用者が集い、飲食や語らいを楽しむ交流の場の創出
- ③ レストランなどが出店したくなるような魅力ある公園づくり

3) 自然資源の保全と活用

- ① 現在あるスポーツ施設のエリアと自然環境を残すエリアの区分の見直し
- ② 自然景観の保全策を踏まえた整備と管理の検討
- ③ 現況の自然環境把握と目標とする植生区分検討

4) 防災・避難

- ① 防災拠点としてのオープンスペース設定
- ② 緊急輸送路、啓開道路からの物資ルートと避難ルートの検討

5) 交通・アクセス

- ① 公園のアクセス方法についての検討
- ② 来園者（障がい者等）が利用可能な公園内のレクリエーション動線、バリアフリー動線の設定
- ③ 利用者の利便性を考慮した駐車場計画

6) マネジメント

- ① ボランティア団体（活動への参加者）の拡充、活動の多様化への支援策
- ② ボランティアへの参加者を増やすための情報発信機能の検討
- ③ 官民で連携し、協働運営体制を継続するための仕組みや PDCA サイクル※による管理運営の仕組づくり
- ④ 運営協議会の機能や役割の明確化

※PDCAサイクル：PLAN（計画）DO（実行）CHECK（確認）ACTION（処置）を繰り返すことで継続的改善を行う。